

□議員名：岡山明

1 防災面を含めたトイレ環境について

論点	令和５年度の公立学校施設のトイレ洋式化率は、山口県がワースト１位、４７．２％、県内の市町別では、山陽小野田市はワースト３位、３５．１％である。学校和式トイレ事業の推進状況はどうか。
回答	令和６年度末における小中学校トイレの洋式化率は３６．８％であり、小学校では３５．８％、中学校で３８．８％となっている。また、今年度２４基の洋式トイレを設置する計画であり、令和７年度末の洋式化率については４０．０％となる見込みである。

論点	洋式トイレ１基当たりの児童生徒数に格差を生じないように事業が進められるようだが、この格差是正の状況をどう改善するのか。
回答	６月定例会において、附帯決議を受け、洋式化率が５０％を下回る小学校９校、中学校３校を対象として、均等に２基ずつ整備することとしていた当初の計画を見直し、児童生徒数に応じて設置基数を決定の上、子供たちに不便が生じないように取り組むこととした。

論点	令和７年度政策方針の中で、小中学校のトイレの洋式化について、今後おおむね５年を目標として１００％充填することができるよう取組を加速すると市長が述べられているが、その取組はどうか。
回答	設計業務については、令和７年末から令和８年末までの約１年間に要するものと見込んでいる。この計画に基づいて、令和９年から令和１２年までの４年間で洋式化工事に取り組む。児童生徒の教育環境の改善を図るためにも、可能な限り早期の実現を目指していきたいと考えている。

論点	幼稚園、保育園のトイレは園児にとって使い勝手のいい洋式便座であるが、小学校１年生になると６３％が和式トイレになる。やはりこの格差は１年生にとっては大変大きな壁と考えられる。１年生の保護者の方々から、何度もこの要請を受けている。最優先に小学１年生の校舎から洋式の改修工事を進めていただきたいがどうか。
----	---

回答	<p>いろいろ問題点もあるが、洋式化したからといって全て解決するかというと、そういう問題でもないというところもある。生活様式の変化というところで、教育に携わる立場の者としては、いろいろなところから解決すべき課題があると捉えている。1年生からという提案であるが、各学校において、いろいろな課題を抱えており、まずは現場の先生、校長先生、その他の声を聞いてから決めるのが妥当ではないかと考えている。</p>
----	--

論点	<p>緊急避難所や避難所にもなっている屋内運動場のトイレ（多目的トイレ、バリアフリー化を含む）は、どういう状況になっているか。</p>
回答	<p>緊急避難場所や避難所に指定されている小中学校の屋内運動場については、令和5年度末までに全てのトイレで洋式化を完了している。なお、各学校の多目的トイレについては、基本的には学校生活において児童生徒が多く時間を過ごす校舎内に設置しており、屋内運動場については、現状、多目的トイレやバリアフリー化されたトイレにはなっていない。</p>

論点	<p>緊急避難場所、避難所指定にされている屋内運動場の中で高千帆、高泊小学校の2校においてはトイレ自体がない状況で、避難者への対応をどうするのか、体育館から校舎への移動するためのスロープ等、バリアフリー化の状況はどうか。</p>
回答	<p>体育館から校舎への移動については、いずれかの経路ではスロープ等を設置している。段差の解消に努めている。ただ、全て解消できている状況ではなく、場合によっては移動式のスロープを活用し、避難所対応になればと考えている。</p>